

なにかとあわただしい年の瀬です。クリスマスにお正月、子どもとおもちゃ屋さんにとっては楽しい季節。大人の方には、もう一仕事、そう年賀状。書く（作る？）のは億劫だけど、配達のなかった1月2日は、なんとなく寂しかったですね。

現在会員登録数 266 人さま。今号はちょっぴりクリスマスっぽくお送りします。次号は1月20日発行の予定です★

☆。.*。★。.*。☆。.*。★。.*。目次 ☆。.*。★。.*☆。.*。★。.*☆

【1】お知らせ

【2】コラム

- 《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk
- 《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント その4
- 《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー
- 《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

☆。.*。★。.*。☆。.*。★。.*。☆。.*。★。.*☆。.*。★。.*☆。.*。★

■ ----- ■
【1】お知らせ ☆

● 読書会 参加者を募集しています

「若おかみシリーズの人気の秘密をさぐる

ー著者 令文ヒロ子さんをお迎えしてー

児童文学作家の令文ヒロ子さんをお迎えして、子どもに大人気の作品の魅力について語り合う、大人を対象とした読書会です。

1. 日 時：平成 23 年 2 月 5 日（土）午後 2 時～ 4 時
2. 場 所：大阪府立中央図書館 会議室
3. 講 師：令文 ヒロ子 さん
4. 定 員：30 名（先着順）
5. 対 象：一般、読書ボランティアの方など
6. 参加費：1,000 円
7. 課題本：『若おかみは小学生！ 花の湯温泉ストーリー（1）』
（講談社 青い鳥文庫 2003 年）
課題本はできるだけ読んでご参加ください。

● 寄付金を募集しています

当財団では、子ども文化の振興をめざして、子どもと本をつなぐ活動を進めています。さまざまな講座・講演会の開催など、次代を担う子どもたちの豊

かな読書活動の支援のために、もっともっと充実させていきたいと考えています。

そのため、当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は↓↓

<http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

◆ 活動報告については、
当財団HP <http://www.iiclo.or.jp/> をご覧下さい★

【2】コラム ☆

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『クロティの秘密の日記』

パトリシア・C・マキサク/著 宮木陽子/訳 くもん出版 2010年11月

あらすじ:

約150年前のアメリカ合衆国の南部に住む奴隷の少女クロティ12歳の日常を日記で表した作品。クロティは母を亡くし、台所の主であるティーおばちゃんと暮らしており、主人の息子ウィリアムが勉強するのを見ていて文字を覚える。そして、ウィリアムの新しい家庭教師が奴隷廃止論者であることを知り、友だちや自分の逃亡を夢見る。

○: この本の作者は、歴史的な事実を調べたうえで、架空の人物を主人公に作品を書いています。最近、このように、史実に忠実であることによって一定のリアリティを出すという、フィクションとノンフィクションとの区別が付きにくい作品が増えてきていますね。

Y: あとがきを読んでクロティが実在の人物でないことがわかりました。奴隷の逃亡をテーマにした作品としては、カナダへ逃亡する少女ジュリリーとライザの物語『六月のゆり』(バーバラ・スマッカー/著 いしいみつる/訳 めづん児童図書出版 1979年1月) や、奴隷商人から逃げ出すジップ少年の物語『北極星を目ざして ジップの物語』(キャサリン・パターソン/著 岡本浜江/訳 偕成社 1998年9月) などの読物や、小包に入ってカナダへ逃げる『ヘンリー・ブラウンの誕生日』(エレン・レヴァイン/作 カディール・ネルソン/絵 千葉茂樹/訳 鈴木出版 2008年12月) などが思い浮かびます。

○: この作品はクロティの日記でその日常を語っているので、『六月のゆり』の作品が持つドラマ性は弱くなっていますが、その暮らしを読者が共有して読みます。ただ、クロティが文字を書き始めたころは、彼女自身の

文章がたどたどしいので読みづらいところがありました。

Y：この作品のテーマのひとつに、クロティが文字を習得するということがあると思います。

O：一緒に住んでいるおばちゃんたちとの違いで、クロティは言葉を知ってはじめて「自由」(freedom)という概念を獲得していくのですから。

Y：世界を見る視野が広がったことで、クロティは奴隷としてとどまりながら、逃亡列車の車掌になる決心をします。私にとってこの結末はとても納得いくものでした。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント その4

「図書館との連携とは」

ボランティア活動は図書館と連携することによって活動が広まり、深まります。「連携」とはボランティアグループと図書館のどちらかが一方的に支援をする・受ける関係ではありません。お互いがそれぞれの機能を出し合って、1+1を3にも4にもしていくということです。

つまり、ボランティアグループは、図書館に本を貸してもらい、研修を開いてもらう、場所を確保してもらいというように「～してもらい」という考え方ではなく、市民グループとして、本を借りたり、研修を持ったり、場所を使ったりすることで、図書館とともに地域の読書活動を充実していくという姿勢が重要です。図書館の良きパートナーとして、うまく“使う”ことが読書活動の発展につながるということです。

ですので、自分たちのグループの利優先で考えるのではなく、図書館の現状を踏まえ、どのようにアプローチすれば、よりよい図書館が作れ、自分たちの活動もより良く活きるのかを考えた上での働き掛けが必要です。同時に、図書館から言われたことにただ従えば良いというのではなく、図書館のあるべき姿を求めて積極的に提言していくことも必要です。

だれもが読書の自由、読む権利を保障されるために、地域に図書館が根付くことは読書活動推進の根本です。そういう意味で図書館との連携はボランティア活動の重要なキーの一つと言えるでしょう。(Y)

*次号では「絵本の選び方」をテーマとする予定です。

質問や意見をいただきましたら、それにお答えしていきたいと思います。

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

資料所在データベース篇、第4回目。今回は次のサイトです。

神奈川近代文学館 <http://www.kanabun.or.jp/>
(資料検索ページへは、トップからお入りください)

神奈川近代文学館は、1984年に開館した日本近代文学の専門資料館です。尾崎一雄や獅子文六、井上靖などの旧蔵資料を所蔵していますが、児童文学でも国内有数の資料があることで知られています。

例えば、戦時中から日本の児童文化運動に大きく関与し、昭和13年の児童文化統制にも関わった滑川道夫のコレクション(42,770点)は、国際児童文学館の礎となった鳥越コレクションと並ぶ、日本で貴重な資料群の一つといえます。他に、童謡の西條八十(11,760点)や藤田圭雄(36,130点)をはじめ、少女小説の吉屋信子(3,300点)、雑誌「赤い鳥」の鈴木三重吉(1,900点)、作家・評論家としても活動した関英雄(6,420点)など、著名な児童文学作家・研究者の資料を多数所蔵しています。

こうした資料は特別資料として管理されており、すべて検索することができます(事前に利用登録が必要)。便利なのは、各作家の文庫ごとに検索できること。例えば、吉屋信子のコレクションの中に、ある資料が含まれるかどうか調べることができます。作家研究にとって、これほどありがたいことはありません。研究をサポートするデータベースとして、今後は著作権をクリアしたものは一次画像を投入するなど、さらなる進化を期待します。(J)

※ 次号は、資料所在データベース篇〈第5回〉の予定です。

《4》 行って来ました！

京都の美術館「えき」で開催されている「誕生100年ローズオニール キューピー展」に行ってきました。

私にとってキューピーと言えば、祖母に毛糸で編んだ服を着せてもらったお人形。それに「キューピーさん」の童謡も歌い聞かせてもらった愛着のあるキャラクターです。あまりにも馴染んでいて、いつから日本にキューピーがいるのか考えたこともありませんでした。

ローズオニールに生み出されたキューピーは、1909年アメリカの婦人雑誌に掲載されたのがデビューだそうです。その絵物語に描かれたキューピーたちは、よく見ると、頭に旗をつけていたり、金づちを持っていたり、眼鏡をかけていたりするものもいて、見飽きません。キューピーの絵が使われたお菓子の広告やポストカード、食器なども展示されていて、当時の人気うかがえます。

そしてキューピーは人形になります。ローズオニール自身が作った原型や設計図も展示されていましたが、たくさん並んでいるキューピーたちは一体一体違った表情に見えます。年代や作られた場所によって大きさやポーズや衣装も様々です。クレープーパーのドレスを着たものもあって、私も小学生の頃、手芸にはまった記憶がよみがえり、とって懐かしかったです。お祭りのほっぴ姿や歌舞伎の見得を切った姿の和風のキューピーもいました。大

正から昭和にかけて日本でもブームになったそうで、「子供之友」や「少女倶楽部」や「キンダーブック」などの掲載誌も展示されていました。近くにいた年配の女性はキューピーさんの歌のページの前で思わず口ずさんでおられました。なつかしさと新発見の展覧会でした。(K)

【3】全国のイベント紹介 ☆

● 資料展示「遙かなる宇宙 - 子どもの本が描く夢と冒険」

会 場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

期 間：開催中 ～ 平成23年3月6日(日)

内 容：宇宙をテーマとする児童文学作品 約60点

解 説：日本の女性宇宙飛行士や、小惑星探査機が大きな話題となり、映画「宇宙戦艦ヤマト」が注目を集めています。宇宙空間への挑戦は、人類の永遠の夢です。子どもの本の世界においても、明治期、ヴェルヌを中心として月旅行が描かれて以来、宇宙旅行・彗星衝突・地球滅亡などさまざまな作品が産み出されてきました。昭和30年代以降には、多くの雑誌で月面着陸や惑星探査などが描かれ、SFでは、宇宙を舞台に科学の力と可能性が描かれてきました。子どもたちの冒険欲をかき立て、夢を育ててきた作品の世界を辿ります。

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます★

【4】プレゼント ☆

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ?」で紹介しました『クロティの秘密の日記』(パトリシア・C・マキサク/著 宮木陽子/訳 くもん出版 2010年)を抽選で1名の方にプレゼントします。

ご希望の方は、メールで 件名「IICLO MAGAZINE NO.4 プレゼント希望」とし、

(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス (5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は1月11日(火)、当選は発送をもって代えさせていただきます★

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

「駆け込み乗車はおやめ下さい・・・！」地下鉄の放送ではありません。メルマガ発行日直前の私です。読者の方から「発行回数を増やして」とのお声をいただいています。月1でも原稿が揃わず、なかなかキビシイので、しばらくはお許し下さい。

とは言え、明日は冬至、かぼちゃを食べて、ゆず湯(気分)でほっこり。した

